

はなさそふ あらしのにわの ゆきならで

第7期 OG 菊盛 真衣
(新姓 石井)

昨年のクリスマスに、未知のウイルス X (コロナでもインフルエンザでもない) によって高熱を出し、熱は翌日に下がったものの、同時に喉の痛みと咳で声がガラガラになり、体調が戻らないまま年を越しました。その後も大きく回復せず、症状は喉から鼻に移り変わり、次第に耳の調子もおかしくなり、1カ月以上不調に次ぐ不調で全く使い物になりませんでした。ウイルス X の威力、恐るべし。ウイルス X を甘く見ていたのかもしれませんが (皆様もどうかお気を付けてください!)、ここまで長く体調を崩したのはここ数年なかったのだからかなり凹んでいます。でも、思い返せばこの1年、体調不良になることが以前より増えた気がします。も、もしやこれって老化のせいなのでは!? ああ、確かにそうだね、曲がり角な年齢だもの。年齢を着々と重ねていることに落ち込みつつ、妙な納得感に包まれる今日この頃です。

昨年は最後こそ大きくコケたものの、そこまで悪くない1年でした。グッドニュースの一つは、日本マーケティング学会が発刊する学術雑誌『マーケティングジャーナル』に10期の石井君と共著で寄稿させていただいた論文が奨励賞を受賞しました。小野先生には、寄稿の機会をいただいただけでなく、研究を進めていく過程でも沢山のサポートをいただきました。この場を借りて御礼申し上げます、ありがとうございました! 自分の論文が学会で評価されたことは素直に嬉しく、今後の研究活動の励みになりました。小野ゼミ繋がりで言えば、昨年は、小野先生と大学院ゼミ出身者で研究会を開催できました。院生時代は毎



11月 日本マーケティング学会 表彰式にて
(スピーチしているは私ではなく、共著者の石井君)

週ゼミで議論していたのに、卒業してからなかなか集まる機会を持っていませんでした。久しぶりに集まった場で鋭いフィードバックをビシビシもらい、懐かしい緊張感を感じました。また、刺激をもらいたいのので今年も集まりましょう! と書きながら、次回のコーディネートを私のターンで止めていることに気づきました(笑)先生方、すみませーん!!

もう1つ個人的なグッドニュースは、昨夏に1か月半ほどイギリスに訪問研究員として滞在できたことです。向こうに滞在している間に、過去に自分の論文を書く時にじっくり読み込み、引用した論文の著者に会いに行くことができました。今思えば会

いに行った目的は特になく、知り合いになればいいかなという軽いノリでした。そんな軽いノリでノコノコ行くなよ！と今思えばツッコミたくなります。でも、わざわざイギリスまで行ったし、そこでもし何かバッドなことがあっても、日本に住む私と会う機会なんてほとんどないのだから、とりあえず行っちゃえ！何とかなるさ！と待ち合わせ場所のケンブリッジにノコノコ行きました。会ってくれた彼女はイギリスのダラム大学のゾフィア・トート先生です。遠い日本からやって来た、素性のよく分からない人間のただ会いたいという謎の申し出を快諾してくれる懐の深さよ！拙者、あまりの寛大さに脱帽でござるよ。ケンブリッジでは、DNAの二重らせん構造を発見したワトソンとクリックが集まり、そのアイデアを閃いたと言われるパブ「The Eagle」に連れて行ってくれました。読者の皆様に誤解されたくないのですが、私は純ジャパで留学経験もありません。英語で研究者とゆっくりパブで語り合うなんて無理オブ無理！折角、ドラマチックで歴史的なパブにいるのに、思うように話ができず、水を飲み続ける私！泣ける！沈黙が耐え切れず、一緒に研究をしませんか？と藪から棒にお誘いし、完全にその場の思いつきの研究構想をボツ、ボツと話す私。そんな構想に真剣に耳を傾け、意見をくれる誠実なゾフィア。しかも、共同研究のお誘いまで快諾してくれました。ゾフィア、懐広すぎやしないかい？拙者、もう脱ぐ帽子がないでござるよ！

そんなわけで、国際共同研究が昨秋よりスタートしています。毎月オンラインミーティングをしていますが、研究より、自分の英語の出来なさに毎度凹んでいます。今度ゾフィアと再会する時にはパブで軽やかにお喋りしたいし、他にも関心領域の先生たちと国際的な知り合いになりたいです。そうしたら、今よりもっと研究生活が楽しく、充実したものになるような気がするからです。だから、今更ですが英語の勉強を始めました。あんなに受験の時に英語を勉強したけど、いざ使おうと思うと上手く使えません。あの勉強時間は一体どこへ....。



かの有名なワトソンとクリックが議論を重ねた歴史的なパブ「The Eagle」にて。ゾフィア・トート先生と談笑する著者。この不思議なパワーを借りて、共同研究の約束を交わしました。



9月 鳥取での小野ゼミ大学院研究会後の懇親会にて。
小野先生と、先生に絵を教わる娘。

さて、今回のタイトルは「花さそふ嵐の庭の雪ならでふりゆくものは我が身なりけり」という百人一首の歌です。意味としては、桜の花を誘って吹き散らす嵐の日の庭は、桜の花びらがまるで雪のように降っているが、実は老いて古（ふ）りゆくのは私自身なのだあとということです。桜の花といえば日本的な美しさの象徴ですが、同時に儚さを併せ持ちます。桜が吹き散っていく様に自分

の老化を重ねるなんて、昔の日本人はなんて粋なんでしょう。この感覚を外国人に説明しようとしたら、どうやって英語で話せばいいのだろう、そもそも伝えたとして意味が通じるのだろうかと考えるほどには、英語に頭を侵食されています。そんなことは置いておいて、体調をド派手に崩したり、研究会のコーディネートをすっかり忘れてたり、己の体の様々な所で老化を感じる最近です。でも、まだ桜の花びらをすべて吹き散らすわけにはいかないところ。わが身を後退させる嵐のような(?)力に抗って、地面に這いつくばりながらも匍匐前進でチビチビと前に進んでいきたいです(虫かよ!)



12月 毎年恒例、7期白石くんがゼミ6期生に講演してくれました！
なぜかゼミ生の男性比率が急上昇してます(涙)